



# 平成26年度 森林の流域管理システム推進発表大会を開催



2日間に渡って開催された発表大会（局大会議室）

## 日頃の活動成果を発表

九州・沖縄各県の森林・林業関係者等が参加

10月21・22日の両日、九州森林管理局大会議室において「平成26年度森林の流域管理システム推進発表大会」を開催。九州各県の森林・林業関係者や九州の各県で森林・林業を学ぶ高校生、当局・署の職員など、両日で延べ約320人が参加しました。

発表は、それぞれの地域や職場、学校などで取り組んでいる、森林・林業再生に向けた取組、民国連携による流域毎の林業の活性化や林業技術の向上、国民参加の森林づくりによる森林整備、シカ被害対策など多岐にわたる26課題（一般の部20課題、高校の部6課題）の発表がありました。（2面・3面に関連記事）

この発表大会は、官の森林・林業関係者が日頃取り組んでいる活動の成果を発表が主催し、産学し、技術の交流や情報交換を行う

い、流域の森林・林業の活性化を図る目的で開催しているもので、今回で20回目を迎えました。

開会にあたり、同協議会会長から「現在、日本の森林・林業の再生に向けた取り組みの方向性は、林業の成長産業化や地球環境への貢献などを推進することにあります。九州は人工林を中心に森林資源が充実してきているという特徴を活かし、それぞれの地域で、持続可能な林業経営に向けてさまざまな取り組みを行っています。また、森林資源の循環利用についても、公益的機能の高度発揮や森林整備の観点から健全な森林を維持していくことが必要であり、「植える、育てる、使う、植える」のサイクルが重要であり、このことが今後の森林・林業の発展につながるものと認識しています。

本大会において、九州の課題を的確に捉えたテーマの研究結果、取り組みについての発表が期待されるとともに、皆様の相互交流が一層盛んになって森林・林業の再生に向けた取り組みに弾みがつくよう期待します」とあいさつした後、一般の部17課題の発表を行いました。

二日目は一般の部3課題と高校の部6課題の発表があり2日間わたる発表が終了しました。その後、鹿児島大学農学部附属高限演習林技術専門職員・芦原誠一氏による「森林管理における人材育成について」と題して特別発表行われました。

最後に審査委員長の（独）森林総合研究所九州支所の森貞和仁所長から講評があった後、九州林政連絡協議会会長賞（最優秀賞1課題、優秀賞5課題、特別賞1課題）と九州森林管理局長賞3校に表彰状が授与され2日間の発表大会を終了しました。



特別発表の芦原氏

26 課題の中から特に高い評価があった  
 一般 7 課題と の部 高校生 3 課題を表彰

平成26年度森林の流域管理システム推進発表大会の各賞の入賞課題と発表者は次のとおりです。

**九州林政連絡協議会会長賞**

**最優秀賞**

◇南薩地域における間伐林分の林地残材について  
 鹿児島県南薩地域振興局  
 柱 敦史



最優秀賞受賞の柱敦史氏

**優秀賞**

◇誘道伐及び一貫作業システム推進に向けた検討  
 熊本南部森林管理署  
 嶋 徹矢

米本龍正  
 坂田博之



優秀賞受賞の米本氏・嶋氏・坂田氏

◇間伐材等を活用したクリーク護岸工事の取り組みについて  
 佐賀県佐賀中部農林事務所  
 近藤真奈美  
 石田秀明

◇エリートツリーから多様な林業の可能性を考える  
 森林技術・支援センター  
 釜 稔  
 田中和利

◇低コストによる外来種（ギンネム）対策と海岸林再生への取り組み（第2報）  
 西表森林生態系保全センター

渡邊昭博  
 沖繩森林管理署  
 岩下清美



優秀賞受賞の近藤氏・石田氏

◇宮崎県北部地域における苗木自給率の向上を目指して  
 宮崎県西臼杵支庁林務課  
 齊藤真由美  
 竹本俊夫



優秀賞受賞の田中氏・釜氏

優秀賞受賞の岩下氏・渡邊氏



優秀賞受賞の齊藤氏・竹本氏



**特別賞**

◇マルチコプターを活用した森林現況調査等について  
 熊本南部森林管理署  
 丸橋勝寿  
 中嶋紀光  
 白濱正明

**高校生の部**

**九州森林管理局局長賞**

◇茅葺き屋根の四阿建設  
 熊本県立阿蘇中央高等学校  
 荒井裕太  
 望月竜真



特別賞を受賞した白濱氏・丸橋氏・中嶋氏



局長賞＝熊本県立阿蘇中央高等学校

◇熊本の森を守ろう2014  
山間部を取り巻く問題に向き合  
う

熊本県立八代農業高等学校泉  
分校

高本梨花  
中野姫和子  
一二三拓哉  
黒岩雅史



局長賞＝熊本県立八代農業高等学校泉分校

◇高校生による美ら島プロジェ  
クト沖縄の願い、豊かな自然を  
未来へ残せ！〜森・川・海にお  
ける環境保全への取り組み〜  
沖縄県立八重山農林高等学校

與那城礼  
知花萌香  
宮城加奈  
(担当＝技術普及課)



局長賞＝沖縄県立八重山農林高等学校

## 県立高校生が体験林業

【宮崎南部森林管理署】宮崎  
県林業労働機械化センターの依  
頼で宮崎県立日南振徳高校生が  
国有林で林業体験学習を行いま  
した。当機械化センターでは、  
例年、宮崎県の委託で若者の林  
業への関心と参入を促進するた  
め、林業関係の高校生を対象に  
林業体験学習事業を実施。その  
一環で地域農業科2年生17人を



体験林業に参加した高校生＝宮崎南部

対象に大矢取林木遺伝資源保存  
林内で現地の林分状況を説明し  
森林・林業の現状や課題、森林  
整備の必要性などについて講義  
今後、これらの高校生から宮崎  
県林業の将来を担う人材が育っ  
てくるものと期待しています。

## NPOと協同で森林教室



巣箱作りに挑戦する児童ら＝北薩

【北薩森林管理署】当署とN  
PO法人「水と地球」は協同で  
伊佐市豆漬国有林の分収造林地  
で、伊佐市立羽月西小学校3〜  
6年生と羽月小学校スポーツ少  
年団約30人を対象に森林教室を  
行いました。最初に「紙芝居」  
で森林の働きなどを説明した後、  
スギ板を使った巣箱作りに挑戦。  
慣れない手つきで、お互い協力  
しあい素敵な巣箱を完成させま  
した。木の名前あてクイズでは、

珍しい木の名前の正解に歓声が  
あがり、森林・木材に親しむ有  
意義な一日となりました。

## 森林保護員が巡視活動へ

【大分森林管理署】秋の登山  
シーズンを前に、大分森林管理  
署と大分西部森林管理署合同に  
よる森林保護員（グリーンサポ  
ート・スタッフ）の出発式を九重  
町田野の長者原センターセンター  
で行いました。森林保護員によ  
る巡視活動は、「マツじゅう連山」  
を対象にパトロールを行い、登  
山者の入込状況把握とマナーの  
指導。また、登山道の危険箇所  
の把握や注意喚起、植物踏み荒  
らし防止用の立入規制のロープ  
柵の設置などを行うこととして  
います。今回の後期巡視につい  
ては、11月17日までの予定で、



巡視活動に出発する森林保護員＝大分

週末や祝日を主体に活動するこ  
ととしています。

## 人吉・球磨の自然観察会を開く



乙益講師の説明を聞く参加者＝熊本南部

【熊本南部森林管理署】環境  
省希少野生動物植物種保存推進員  
の乙益正隆氏を講師に迎え、  
「椎葉林道沿線で見られる植物」  
をテーマに「人吉・球磨自然観  
察会」を開きました。当日は、  
約20人が参加。相良村の椎葉林  
道沿いの国有林を歩きながら、  
草本類やシダ類などの植物を観  
察しました。現地ではススキや  
ハギなどが秋風に揺られるなか、  
数多くの植物を観察しながら、  
乙益講師の植物と人の暮らしの  
関係や薬効など、植物方言を交  
えた説明があり、参加者は熱心  
にメモを取りながら楽しく学習  
しました。

# インターシップを体験しました

【長崎森林管理署】10月8日から10日まで長崎森林管理署でインターシップを長崎県立諫早農業高校環境創造科2年生2人が体験しました。初日の8日は、管内で働いている職員へあいさつをし、その後自分たちの名刺を間伐紙で作りました。午後からは島原市の眉山で行われている治山事業を見学し、確認検査の体験をしました。9日は、大村森林事務所で管内概要の説明を受け保育間伐（活用型）の現地確認を行いました。午後から大村市萱瀬の萱瀬ヒバ植物群

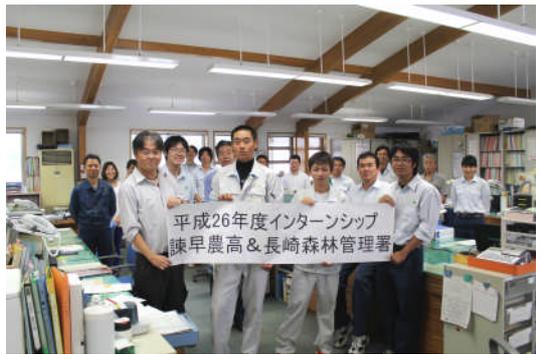


山口裕和さん



私は子供の頃は田舎で過ごし、遊びといえば野山や川遊びがほとんどでした。特に山遊びは魅力的で、自然の木が遊び道具であり、果実を付ける樹木はおや

落保護林、萱瀬スギ植物群落保



2人と職員のみなさん川長崎

つのも木でした。また、薪とり山に入り採った薪で五右衛門風呂を沸かし、かまどでは料理用の火をおこしたりしていました。しかし、薪とりもかまどもなくなり、成長につれ身近にあった森林が徐々に遠くの世界になってきたと感じるようになってきました。

「自然（森林）は人間が干渉しないことで守られる」と言われる方もいます。確かに無秩序な乱開発や、木々の乱伐採や植物の盗採は自然を壊すでしょう。でも、森林が国土のほとんどで

護林の巡視と歩道修理を体験しました。10日は、長浦森林事務所

の業務概要と境界巡検を行うためGPSと巡検杭の使い方の説明を受け、実際に境界を歩き、L杭の設置を行いました。今回のインターシップでは、普段できないさまざまな体験が出来ることも内容の濃い3日間の良い経験になり、ありがとうございました。以上2人からの今回学習した感想の投稿です。

## 森林作業道現地検討会を開催

【宮崎北部森林管理署】宮崎県関係機関や管内市町村及び関係林業事業体、当署職員など約



作業道作設の実演を見学する参加者川宮崎北部

50人が参加し、「森林作業道現

ある日本は森林の管理なくしてはあらゆる面で現代社会が成り立たないと考えます。四季のある日本の森林はいろいろな色を見せてくれます。それゆえに緑は心を癒し人間を成

# 森林に対する思い

長させてくれると思います。また近年子供らは、都市化やゲームなどの普及でごく自然な形で森林と触れ合う機会が制限されてしまいい心の成長が不十分ではないかとも思います。

山に登山計画をしており、素晴らしいと感じています。いつもなんとなく見ている山に登り、生活している町を見下ろすといういろいろなものが見えて感じることが出来るのではないのでしょうか。そのような場面で、昔は生活の一部だった森林が森林教育や森林

数年前に桜島で多くの子供らと植樹する機会に恵まれました。そこで子供らと保護者が笑顔で一生懸命植樹する姿に喜びを感じました。また、近所の子供会では自分たちを見下ろしている山に登山計画をしており、素晴らしいと感じています。いつもなんとなく見ている山に登り、生活している町を見下ろすといういろいろなものが見えて感じることが出来るのではないのでしょうか。そのような場面で、昔は生活の一部だった森林が森林教育や森林

地検討会」を行いました。宮崎健次次長から「路網整備の基盤となる林野庁の定める指針に基づいた路網作設の技術を普及させることが重要である」とのあいさつがあり、その後、作設手順説明、オペレーターによる作設実演を見学、既設森林作業道の現地検証及び水処理について意見交換を行いました。また、6年前の森林作業道の現況写真の説明で丁寧に路体を転圧することや水処理を十分に行うことで、長く使える堅固な森林作業道が作設出来る事を再確認し、成果のある検討会となりました。

（鹿児島県出水市在住）

## 平成26年度第1回

# 屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカワーキングを開催

10月25日～26日に屋久島環境文化センターにおいて、屋久島世界遺産地域科学委員会及びヤクシカ・ワーキンググループが開かれました。

会議に先立ち、事務局を代表して川端省三九州森林管理局長から、「屋久島世界遺産地域の保全管理にとって重要な指針となる、新たな「屋久島世界遺産地域管理計画」の策定につながるなど、これまで科学委員会が果たしてきた大きな役割に感謝する。今後においては、当面の課題として最近クローズアップされている「山岳部の適正利用



事務局を代表してあいさつをする川端局長

の問題」、「ヤクシカ問題」、「外来種問題」などについて、議論を進めることとし、これらの問題解決に当たするため、委員構成を見直したところ。その意味で本日は新たな節目となる委員会と考えている。屋久島世界遺産地域の価値を良好な形で未来に引き継ぐため、各委員の活発な議論をお願いする」とあいさつがあり、次に、岩川浩一屋久島副町長から「自然環境の保全と観光振興の調和を推進するため、屋久島町では入島税、入山料など新たな財源確保の検討や、ガイド登録制度について現在検討を進めている。また、1980年に登録されたユネスコエコパークの再登録や有害鳥獣駆除捕獲の実施などの課題も抱えており、科学委員会での提言に期待を寄せている」とのあいさつがありました。

その後、矢原徹一科学委員会委員長の議事進行のもと、今後の科学委員会の検討課題、モニタリング調査、ヤクシカ対策、利用のあり方などについて、次のような議論が行われました。

今後の科学委員会の検討課題として集約整理された、①山岳部の利用対策②ヤクシカ対策③調査研究・モニタリングの手法等④外来種対策の4点のうち、

今回は特に、山岳部の利用対策について活発な議論がなされました。科学委員会としてのよきな形で提言できるのか、短期的議論だけでなく長期的あり方についても一定の議論が必要、利用に関するデータが足りないためデータの蓄積が必要、島全体で議論するのがある程度範囲を絞って行うのかなど、さまざま意見が出され、科学委員会において利用のあり方全般について今後も議論を続けることが重要とされました。

モニタリング調査については、九州森林管理局が行っているアブラギリ対策における駆除方法に対する助言、環境省が行う利用に係るモニタリング調査に対し、調査項目の追加の必要性などについて議論が行われました。ヤクシカ対策については、前回開かれたヤクシカ・ワーキンググループと特定鳥獣保護管理検討委員会の合同会議の報告が行われ、一部地域においては、ヤクシカ被害も減少しており捕獲の成果が現れているが、依然として被害が続いていることにつ

いて、第2種特定鳥獣管理計画の議論も始まり、生態系の状況を見ながら順応的に管理していくのが重要であるとされました。山岳部の利用のあり方については、検討体制や進め方、検討経過などについて説明を行い、その後、中長期的な課題を設定して検討を行う必要があること、透明性・継続性をどう担保するか、検討に当たっては住民を含めた検討の場が必要などの意見が出され、今後の重要な検討課題として議論を進めることとされました。

また、屋久島町から、現在登録準備中の屋久島・口永良部島ユネスコエコパークについて、緩衝地域の設定問題や、登録に向け、屋久島町全体で取り組む旨の説明がありました。

最後に、九州地方環境事務所北橋義明国立公園・保全整備課長より「貴重なご意見を踏まえて、関係行政機関の一層の連携を深めながら、屋久島の保全管理の取り組みを進めていく中で、一層の御協力をお願いします」と閉会のあいさつがあり、委員会を終了しました。

(担当) 計画課

自然遺産保全調整官

## 治山事業現場見学会を開く

【鹿児島森林管理署】鹿児島

市立桜州小学校4年生と桜峰小学校5・6年生を対象に桜島治山工事現場の見学会を行いました。当日は、光波測量や重機の試乗体験と、長谷川上流の荒廃状況を見学。今回は、御嶽山噴火災害及び広島市での土石流災害の直後で子供らから「桜島が噴火したらどうしますか」、などいろいろな質問がありました。桜島では火山観測態勢が整っており噴火の前兆は事前にわかることや台風時には工事を中止することを説明。最後に広島での土石流災害に触れ、土石流を防ぐための治山工事であることなど治山事業の役割について説明し、子供たちの笑顔が絶えない有意義な一日となり無事終了しました。



担当者から説明を受ける児童ら＝鹿児島

# 救急法講習会を開催 実習を交え応急手当や蘇生法を学ぶ

国家公務員健康週間中の10月3日、大会議室において「救急法講習会」を開きました。

当日は、熊本市西消防署池田庁舎から佐藤宏之消防司令補外4人の講師を招き局職員多数が参加して行われました。

今回の講習会では、怪我・病気・蜂刺傷などの応急手当や蘇生法について、実習を交えて学びました。

講話の中で講師から、倒れている人を見つけたら落ち着いて慌てずに応急手当を行うことが大切、救急車を呼ぶ時は119番の指示に従うことなど、基本



佐藤消防指令補の講話を聞く参加者

的な注意点や止血、心臓マッサージの方法などについて、実際の事例を交えて分かりやすく説明がありました。

実習では、模範型を使い心臓マッサージを行う者、AEDを持参する者、救急車を手配する者など、それぞれの役割分担により応急手当を行いました。講師か

らは、胸骨圧迫の強さやリズム、AED使用時の注意点などについてその都度助言があり、参加者は真剣な表情で受講していました。

救急法講習会は例年行っていることから、参加者の中には心臓マッサージやAEDの使い方などスムーズに出来ている人が多く見受けられました。このような場面が発生しないことが一番ですが、いざという時に慌てないためにも、日頃の心構えが大切であることを学んだ講習会



れっきとした針葉樹です。果実が団子の串刺しの様な格好をしています。このことから「人形の実」とも呼ばれ赤い果托は熟すと美味しく食べられます。果托は種子の芽生え、成長を始めるまでの栄養分となります。

雄花は穂状で、細長い円柱形で黄白色、包鱗には縦裂する二つの葯を持ち、黄色の花粉を飛ばします。

マキとは真木（本当の木の意味）で、コウヤマキ、スギ、ヒノキなど優れた樹木を指す美称として使われました。イヌマキ

## 85 イヌマキ (マキ科)

に用いられています。

の材質は美称される樹木に対して一般的に優れていなかったのが名前に「犬」が冠されたよう

です。生け垣や防風林、庭木として普通に使われていますが、鹿児島県の薩摩半島では立派な垣根が随所で見受けられます。また、庭木としては剪定により形が簡単に整えられることから鳥や動物の形に剪定され珍重されています。

暖かい地方の山地に自生している雌雄異株の常緑の高木です。材は水に対して腐りにくいことから風呂桶、土木、建築、器具



模型を使った実習を行う参加者

となりました。

(担当：総務課)



今年も早いもので11月になった。通勤途中の寒さが身にしみ頃になってきた▼先月までのクールビズも終わり、今月からはウォームビズが始まった。この取り組みも今回で10季目となり定着してきたようである▼環境省は保温機能のある下着やニットのカーディガン、膝掛けなどが有効としている▼また、温かい飲み物や簡単な体操も推奨している。地球温暖化対策の一環として取り組みをお願いしたい▼千葉県の九十九里浜では地球温暖化の影響なのか、トドが出現したという記事が掲載されていた▼この時期はロシア極東部沿岸に住んでいるのが普通で、群れからはぐれて迷い込んだのではとの事であったが、温暖化による生息地の減少も一因にある事も示唆されていた▼国連のIPCC報告書では、温室効果ガスの排出量を今世紀末にはほぼゼロにする必要があると指摘している、今後の各国の早急な対策強化を求めた▼近い将来「クールビズは12月まで」「ウォームビズって何?」とならないよう、まずは個人で出来ることから取り組みたいと思う。(ふ)